

研究テーマ:語彙力を増やすための指導

所属 高知県立幡多農業高等学校
氏名 竹崎 美由紀
R G S H 8

1. 研究の背景

本校は4つの科からなる。1年次はA～Cの習熟度別に授業を行う。2年次からは各クラスがコースに分かれ、2クラスの同じコースが合同で授業を行う。対象としたクラスは、2年生の進学を希望している生徒からなるアカデミーコースで、生徒数18名(男子1名、女子17名)である。授業では、音読の声も大きく発言も多く、積極的な態度で参加できている。

生徒たちは授業の中でしっかり理解しようとする姿勢が強く、練習問題を多くこなしたいという要望があった。また、英語に対しては、好きだが得意ではないという生徒が多くいる。このような生徒は「単語がわからない」とよく口にする。語彙力の乏しさが、教科書の内容を理解する上で大きな壁になっていると感じ、以下のリサーチ・クエスチョンを設定した。

2. リサーチ・クエスチョン

語彙力を増やし、定着させるためにはどのように指導すればよいか。

3. 予備調査

予備調査1 授業観察の結果

ほとんどの生徒が進学を希望しているためか、授業には集中して取り組んでいる。また、予習をしてきていると答えた生徒が18名中8名いたが、授業中に教科書の後ろで調べているのが現状である。

文法中心の授業では、全ての生徒が一度は自分の力で問題にチャレンジしようとしていたが、わからない問題が出てくると、友人の答えを写す生徒もいた。生徒たちは授業の中でしっかり理解しようとする姿勢が強く、練習問題を多くこなしたいという要望があった。

予備調査2 生徒のアンケート結果

- ① 英語は好きですか。
好き・・・8人 嫌い・・・3人 普通(どちらでもない)・・・7人
- ② 英語は得意ですか。
得意・・・3人 不得意・・・10人 どちらでもない・・・5人

予備調査3 英語力を示すデータ

- ・4月実施 学習支援テストの結果 平均点 41.6
20点代・・・3人 30点代・・・3人 40点代・・・7人 50点代・・・5人
- ・英語検定取得状況 (平成16年12月)
4級・・・3人 3級・・・8人

4. 仮説の設定

仮説1 発音練習に加え、書く活動を取り入れれば、語彙の定着が図れるだろう。

仮説2 小テストで、文の中で語彙を活用させる問題を設ければ語彙は定着しやすいだろう。

5. 計画の実践

仮説 1 新出単語はまず 1 時間目に、教科書付属 CD を用いて発音を確認し練習をする。意味を確認した後もう一度発音練習をする。(1 学期) 2 学期からは上記の活動の後、声に出しながら 10 回ノートに書き、授業後ノートを提出する活動を取り入れた。

2 時間目以降はフラッシュカードを用い、発音練習をする。日本語から英語へ、英語から日本語へ、を 2 ～ 3 度ずつ行う。全体で行なったり、個人を順に指名したりして行なう。

仮説 2 教科書の不規則動詞変化表を用いて、毎時間 5 語ずつ意味・過去形・過去分詞形・～ing 形の 20 問、文の中でその語を活用させる問題を 3 問、合計 23 問の小テストを行なう。

6. 実践の結果

仮説 1 フラッシュカードを用いての発音練習は、最初のうちは新出単語を覚えられず時間がかかった。しかし、回数を重ねるうちに単語がスムーズに出てくるようになった。一番に言おうとする生徒がいるので、自然と声も大きくなり、雰囲気も良くなった。また、全体で行なうと参加していない生徒がいたので、一人一人指名し全員が必ず参加するようにした。

単語や意味を見て発音するということは少しずつできるようになってきたが、1 学期の定期テストでは語彙の正解率は 6 割程度であった。カードの単語は読めるけれども、それを正確に書けない生徒が多くいることがわかった。そのため 2 学期からは 10 回書くという活動を加えた。2 学期の定期テストでは語彙の正解率は 8 割程度に向上した。

仮説 2 小テストを 1 学期 18 回、2 学期 20 回、合計 38 回行なった。ほとんどの生徒はまじめに取り組む、1 学期は 20 点満点で平均点は 16 点、2 学期は 23 点満点で平均点は 21 点だった。2 学期から取り組んだ文の中で活用させる問題は、文法事項の理解にもつながった。

7. 結果の検証

仮説 1 発音練習に加えて書く練習をしたことで綴りの間違いが減少した。これは、音読筆写の要領で、発音しながら書くようにしたため、語彙が覚えやすくなったからではないだろうか。

仮説 2 答え合わせの時に、活用させた理由を生徒に説明させることで、生徒の理解が深まり、語彙だけでなく文法事項も自然に定着してきたように思われる。

8. 成果と今後の課題

年間を通して、1 つの明確な目標の達成のために取り組もうとしたことが成果だと思う。今までは欲張りすぎて、目標も、その達成のための取組も曖昧だった。しかし、アクションリサーチに出会って、問題点や改善点を明らかにし、1 つ 1 つ段階を踏んで目標を達成していくことの大切さに気付けた。

授業アンケートを定期的に実施し、生徒のつまずきや意見に合わせた目標を設定し、継続的、計画的に取り組んでいくことが今回不十分だった点であり、今後の課題でもある。「語彙の定着なくして英語を使った活動はできない。」この言葉を忘れず、今後も授業改善に取り組んでいきたい。